

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 広報おうしゅう 節目の100号
- 4 なぜ今、行革が必要かー本市の未来を考える
- 8 財政状況の公表
- 10 お知らせします 2つの給付金
- 12 0.4%支援事業投票結果
- 13 チャレンジデー2014 過去最高の参加率で勝利！
- 14 6月は環境月間
- 15 百歳おめでとう
姉妹都市 掛川だより
- 16 I L C希望のひかり
- 17 市政ズームイン
- 18 まちの話題
- 20 夢トーク
青春讃歌
- 21 雨の日も晴れの日も
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 22 我が家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 23 子そだて広場
子そだて行事予定
- 24 情報あらかると
- 28 奥州遺産

地域の個性が
ひかり輝く
自治と協働のまち
奥州市

“お互いさま”の気持ちで
喜ばれる福祉を目指す

高橋 智史さん（24歳）
水沢区羽田町駅南Ⅱ



利用者との会話は、常に優しい笑顔で心掛ける

若柳中心部にある特別養護老人ホームやなぎの里。高橋智史さんは、木の香り漂うこの施設で利用者の生活支援などの介護業務を担当している。大学で介護や福祉を学んだ智史さん。当時、友人たちと福祉について熱く語り合う日々を過ごし、それが現在の仕事に生かされている。福祉関係に携わる若者同士の語らいの場「あまかた」を平成25年6月、大学時代からの友人と共に立ち上げた。当初5人で始めた2カ月に一度の集まりに、今では10人以上



たかはし・さとし◎平成元年、水沢区羽田町生まれ。特別養護老人ホームやなぎの里に勤務し、介護業務全般をこなす。若者の語らいの場「あまかた」発起人の1人。両親と弟、祖母の5人家族

が参加。仕事に対する悩みや希望を共有し合っている。「この集まりのきっかけは東日本震災」と語る智史さん。自らも塩釜市での研修中に被災。その後、被災者へのボランティア活動に参加し「困っている人のために何かを——」との思いを強めた。そこから、仲間との語らいの場の設立に踏み切った。智史さんは「もっといろんな人と話したい」と語る。智史さんの相手を思いやる気持ちは、地域で見守る福祉の発展に生かされていく。

〈今月の表紙〉



2014 FIFAワールドカップの開幕まで1カ月あまりとなった5月5日、「こどもの日サッカー教室」が江刺カルチャーパークで行われ、たくさんの子どもたちが参加しました。奥州江刺サッカーフェスティバル（同実行委員会主催）の催しの一つとして開かれた同教室。中学生がプロの指導を受ける傍ら、小さなサムライブルーは、サッカーボールを夢中に追い掛けていました。子どもたちの無邪気なプレーに、思わず笑顔になってしまいます。【関連記事：18ページ】

広報おうしゅう
節目の**100**号

～市民の皆さんと共に歩み続けて～

表紙で振り返る
“広報おうしゅう”のあ・ゆ・み

◇5市町村が合併し“広報おうしゅう”を創刊



【18年3月号】

◇定例コーナーなどもすっかり定着した50号



【22年4月号】

◇1回目のリニューアルで定例コーナーも刷新



【22年10月号】

◇通常の発行日から遅れて配布した東日本大震災特集号



【23年4月号】

◇県広報コンクール一枚写真の部で1位に輝いた表紙



【24年3月号】

◇2回目のリニューアル（現行の“広報おうしゅう”）



【25年10月号】

“広報おうしゅう”100号到達、おめでとうございます。広報の特集は、市の重要な情報が取り上げられていますので、毎月欠かさず目を通すようにしています。また、ちょうど同年代の子どもを抱えているので、青春賛歌のコーナーを楽しみにしています。さらに親しみのある“広報おうしゅう”に成長していくことを期待します。



江刺区愛宕字前中野
及川 貴之 さん（40）

“広報おうしゅう”を、毎月楽しく読ませていただいています。子どもがまだ小さいので、保健などの情報は、いつも気に掛けて読むようにしています。そして、全ページがカラーで、写真もきれいで、明るい感じがいいですね。市が発行する広報なので、難しい内容も多く、もう少し分かりやすくしてしてもらえればと思います。



前沢区古城字水尻
関戸 咲子 さん（38）

読者の声

市民と行政をつなぐ情報紙“広報おうしゅう”。今後も皆さんの協力を得ながら、的確で分かりやすい情報発信に努めていきます。一人でも多くの人が手に取り、そして楽しく読める。そんな“広報おうしゅう”を目指して——。

■問い合わせ＝本庁政策企画課広聴広報係（内線418）